

## Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

### 1 水陸稲（子実用）

#### (1) 水稲

平成 30 年産水稲（子実用）の作付面積は 147 万 ha で、前年産並みとなった（表 5）。

作付面積の動向をみると、昭和 44 年の 317 万 3,000ha を最高に、昭和 45 年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図 4）。

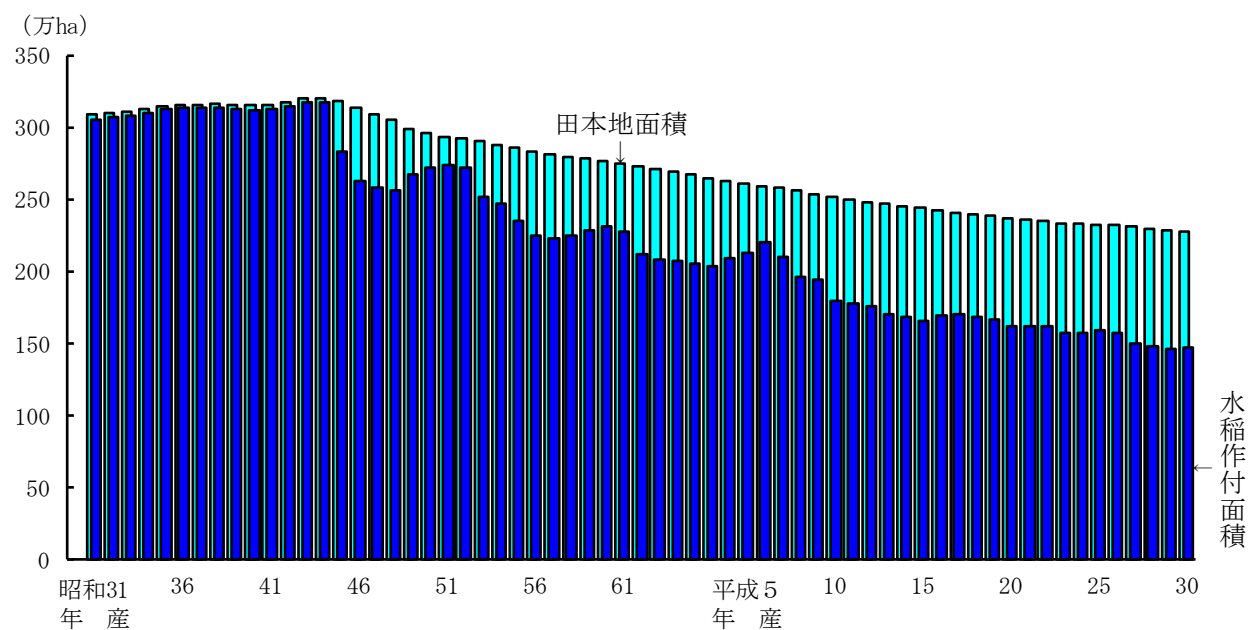
#### (2) 陸稲

平成 30 年産陸稲（子実用）の作付面積は 750ha で、前年産に比べ 63ha（8%）減少した（表 5）。

表 5 平成 30 年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,470,000	4,000	100	1,470,000	5,000	100	750 △	63	92
北海道	…	nc	nc	104,000	100	100	…	nc	nc
都 府 県	…	nc	nc	1,366,000	5,000	100	…	nc	nc
東 北	…	nc	nc	379,100	4,300	101	…	nc	nc
北 陸	…	nc	nc	205,600	1,500	101	…	nc	nc
関 東・東 山	…	nc	nc	270,300	1,800	101	…	nc	nc
東 海	…	nc	nc	93,400	1,000	101	…	nc	nc
近 畿	…	nc	nc	103,100 △	100	100	…	nc	nc
中 国	…	nc	nc	103,700 △	600	99	…	nc	nc
四 国	…	nc	nc	49,300 △	600	99	…	nc	nc
九 州	…	nc	nc	160,400 △	2,700	98	…	nc	nc
沖 縄	…	nc	nc	716 △	11	98	…	nc	nc

図 4 水稲（子実用）作付面積の推移



## 2 麦類（子実用）

### (1) 4 麦計

平成 30 年産 4 麦（子実用）の作付面積は 27 万 2,900ha で、前年産並みとなった（表 6）。

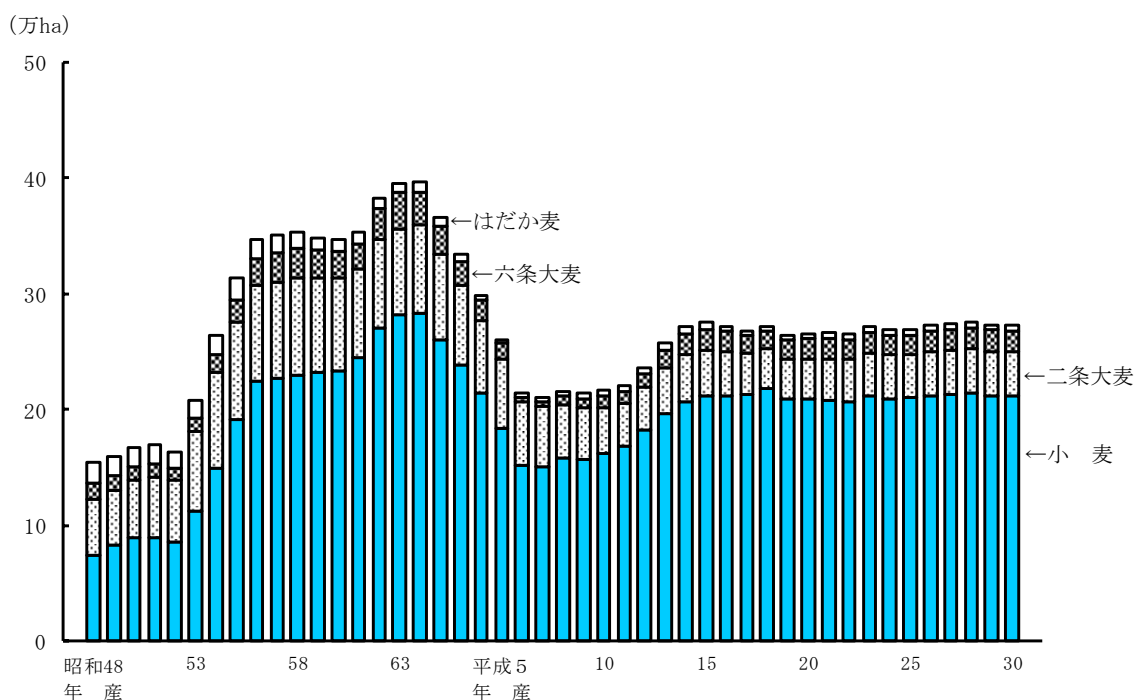
麦種別には、小麦は 400ha 減少したものの前年産並み、二条大麦は前年産並みとなった。六条大麦は前年産に比べて 800ha（4%）減少し、はだか麦は 450ha（9%）増加した。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和 48 年に 15 万 4,800ha と過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には 39 万 6,700ha となった。平成 2 年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成 7 年には 21 万 200ha となった。平成 8 年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成 14 年以降はほぼ横ばいとなっている（図 5）。

表 6 平成 30 年産 4 麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	272,900	△ 800	100	171,300	△ 300	100	101,600	△ 500	100
小 麦	211,900	△ 400	100	115,600	100	100	96,300	△ 500	99
二条大麦	38,300	0	100	34,900	0	100	3,330	△ 80	98
六条大麦	17,300	△ 800	96	15,600	△ 700	96	1,710	△ 50	97
はだか麦	5,420	450	109	5,200	400	108	212	37	121

図 5 4 麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は 21 万 1,900ha で、前年産並みとなった。

このうち、北海道は 12 万 1,400ha で、前年産並みとなった。

また、都府県は 9 万 500ha で、前年産並みとなった（表 7）。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は 3 万 8,300ha で、前年産並みとなった（表 7）。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は 1 万 7,300ha で、他作物への転換等があったことに加え、は種期の降雨のためは種作業を断念したことにより、前年産に比べ 800ha（4%）減少した（表 7）。

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は 5,420ha で、他作物からの転換等があったことにより、前年産に比べ 450ha（9%）増加した（表 7）。

表 7 平成 30 年産 4 麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	4 麦計			小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	272,900	△ 800	100	211,900	△ 400	100	38,300	0	100	17,300	△ 800	96	5,420	450	109
北 海 道	123,100	△ 300	100	121,400	△ 200	100	1,660	△ 60	97	x	x	x	64	29	183
都 府 県	149,800	△ 600	100	90,500	△ 200	100	36,600	0	100	17,300	△ 800	96	5,350	410	108
東 北	7,870	△ 360	96	6,570	△ 470	93	5	x	x	1,280	100	108	10	9	1,000
北 陸	9,790	△ 710	93	403	27	107	7	△ 2	78	9,380	△ 720	93	x	x	x
関東・東山	38,500	△ 200	99	20,900	△ 200	99	12,500	△ 100	99	4,810	△ 140	97	x	x	x
東 海	16,300	△ 300	98	15,500	△ 400	97	3	1	150	693	12	102	44	30	314
近 畿	10,400	△ 100	99	9,040	△ 230	98	153	△ 1	99	1,070	40	104	x	x	x
中 国	5,830	130	102	2,410	120	105	2,740	△ 80	97	x	x	x	x	x	x
四 国	4,840	140	103	2,170	120	106	x	x	x	x	x	x	2,640	20	101
九 州	56,300	900	102	33,400	700	102	21,100	0	100	3	△ 9	25	1,750	120	107
沖 縄	x	x	x	29	6	126	x	x	x	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

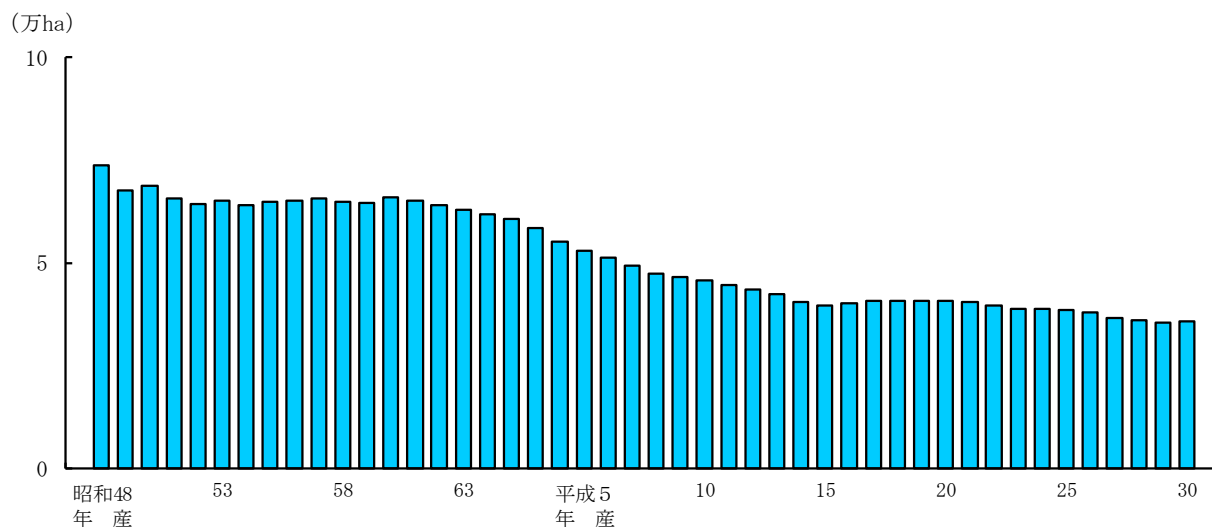
平成 30 年産かんしょの作付面積は 3 万 5,700ha で、前年産並みとなった（表 8）。

作付面積の動向をみると、昭和 50 年以降は減少傾向で推移している（図 6）。

表 8 平成 30 年産かんしょ作付面積

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
か ん し ょ	35,700	100	100	2,630	△ 50	98	33,000	100	100

図6 かんしょ作付面積の推移



#### 4 そば（乾燥子実）

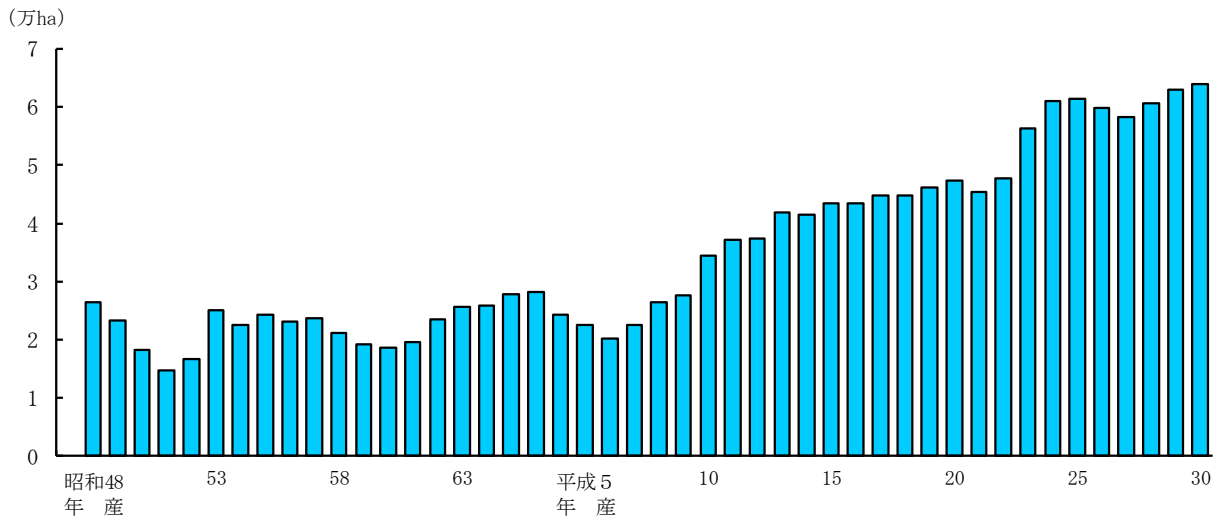
平成30年産そばの作付面積は6万3,900haで、前年産に比べ1,000ha（2%）増加した（表9）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表9 平成30年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	63,900	1,000	102	38,100	0	100	25,800	1,000	104
北 海 道	24,400	1,500	107	9,690	650	107	14,700	800	106
都 府 県	39,500	△ 400	99	28,400	△ 600	98	11,100	200	102
東 北	16,500	△ 300	98	12,600	△ 400	97	3,840	20	101
北 陸	5,520	△ 490	92	4,980	△ 460	92	545	△ 20	96
関 東・東 山	11,600	400	104	6,200	190	103	5,420	220	104
東 海	619	66	112	522	73	116	97	△ 7	93
近 畿	903	△ 18	98	870	△ 17	98	33	△ 1	97
中 国	1,620	△ 70	96	1,390	△ 60	96	223	△ 11	95
四 国	136	△ 6	96	77	0	100	59	△ 6	91
九 州	2,560	△ 50	98	1,720	△ 40	98	836	△ 15	98
沖 縄	53	△ 3	95	-	-	nc	53	△ 3	95

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



## 5 豆類（乾燥子実）

### (1) 大豆

平成30年産大豆の作付面積は14万6,600haで、前年産に比べ3,600ha（2%）減少した（表10）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっていたものの、平成26年以降は概ね増加傾向で推移している（図8）。

### (2) 小豆

平成30年産小豆の作付面積は2万3,700haで、前年産に比べ1,000ha（4%）増加した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は1万9,100ha（全国の約8割）で、大豆等からの転換により、前年産に比べ1,200ha（7%）増加した。

### (3) いんげん

平成30年産いんげんの作付面積は7,350haで、前年産に比べ200ha（3%）増加した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は6,790ha（全国の約9割）で、大豆等からの転換により、前年産に比べ160ha（2%）増加した。

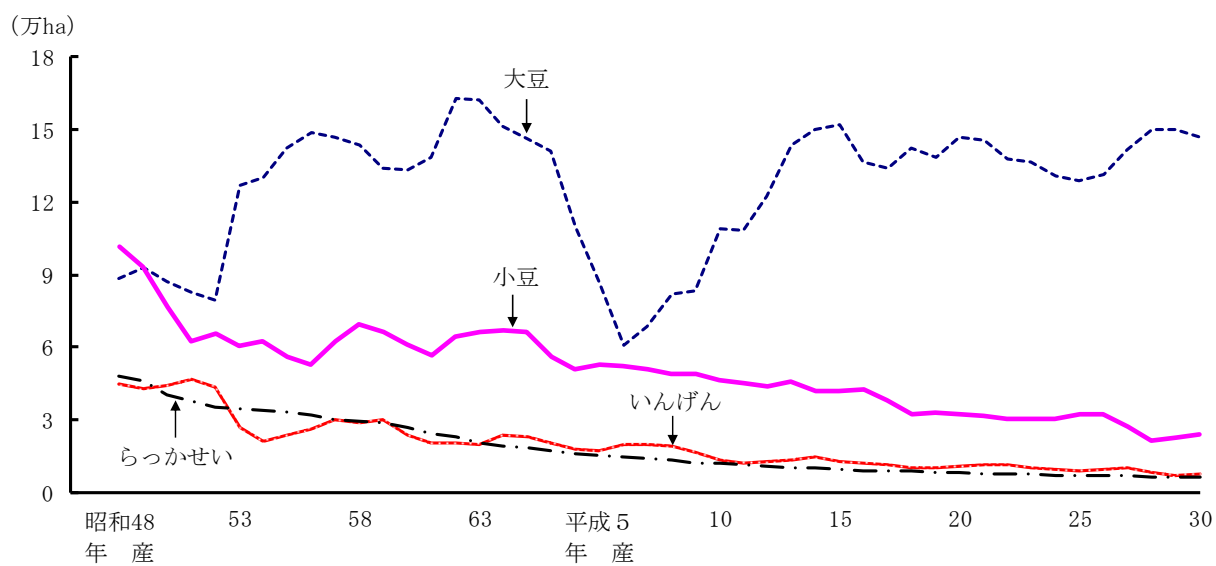
### (4) らっかせい

平成30年産らっかせいの作付面積は6,370haで、前年産に比べ50ha（1%）減少した（表10）。

表 10 平成 30 年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農業地域	大 豆			小 豆			いんげん			らっかせい		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	146,600	△3,600	98	23,700	1,000	104	7,350	200	103	6,370	△ 50	99
北 海 道	40,100	△ 900	98	19,100	1,200	107	6,790	160	102	3	nc	nc
都 府 県	106,600	△2,600	98	4,620	nc	nc	556	nc	nc	6,370	nc	nc
東 北	35,400	△ 900	98	898	nc	nc	68	nc	nc	11	nc	nc
北 陸	13,000	△ 500	96	328	nc	nc	80	nc	nc	31	nc	nc
関東・東山	10,000	△ 500	95	906	nc	nc	391	nc	nc	5,980	nc	nc
東 海	12,000	△ 100	99	115	nc	nc	2	nc	nc	84	nc	nc
近 畿	9,700	△ 180	98	1,240	nc	nc	4	nc	nc	7	nc	nc
中 国	4,530	△ 210	96	732	nc	nc	8	nc	nc	13	nc	nc
四 国	531	△ 26	95	85	nc	nc	3	nc	nc	14	nc	nc
九 州	21,400	△ 300	99	314	nc	nc	-	nc	nc	227	nc	nc
沖 縄	0	0	nc	-	nc	nc	-	nc	nc	8	nc	nc

図 8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



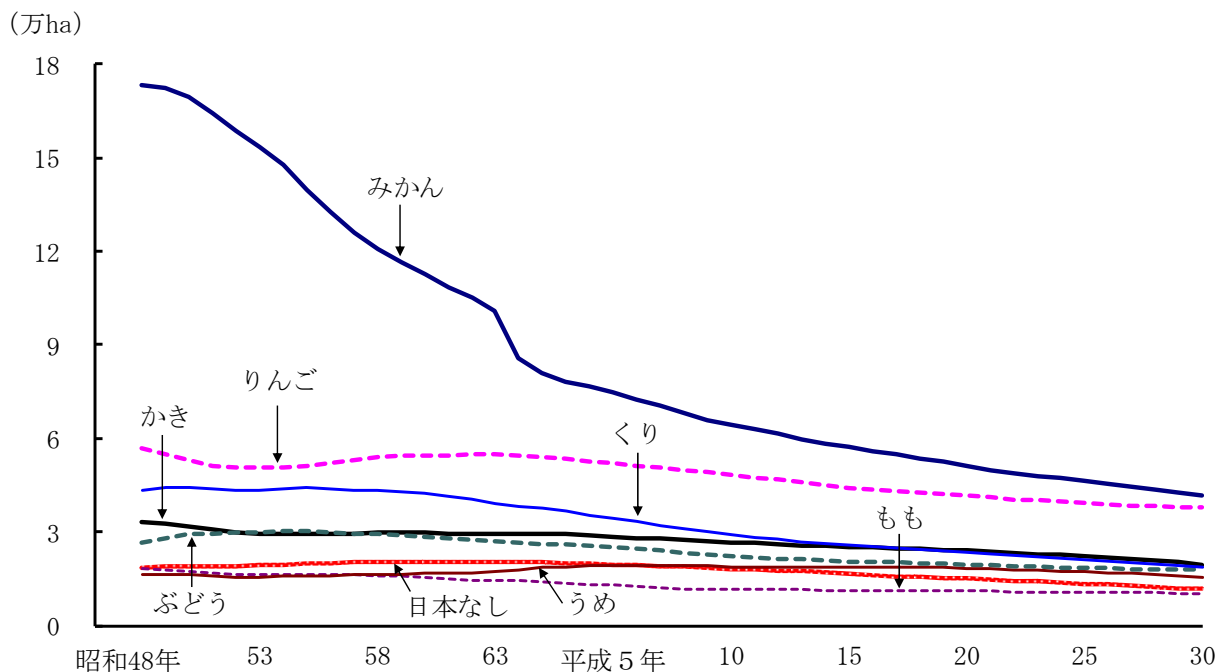
## 6 果樹

平成30年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは4万1,800ha、りんごは3万7,700ha、かきは1万9,700ha、くりは1万8,900haで、それぞれ前年に比べ1,000ha（2%）、400ha（1%）、600ha（3%）、400ha（2%）減少した（表11）。

表11 平成30年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比	対 差			対 比		
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み かん	41,800	△ 1,000	98	す も も	2,960	△ 40	99		
その他かんきつ類	25,500	△ 500	98	お う と う	4,690	△ 10	100		
り ん ご	37,700	△ 400	99	う め	15,600	△ 300	98		
日 本 な し	11,700	△ 400	97	ぶ ど う	17,900	△ 100	99		
西 洋 な し	1,530	△ 20	99	く り	18,900	△ 400	98		
か き	19,700	△ 600	97	パインアップル	565	23	104		
び わ	1,190	△ 80	94	キウイフルーツ	2,090	△ 10	100		
も も	10,400	0	100						

図9 主要果樹の栽培面積の推移



## 7 茶

平成 30 年茶の栽培面積は 4 万 1,500ha で、前年に比べ 900ha（2%）減少した（表 12）。

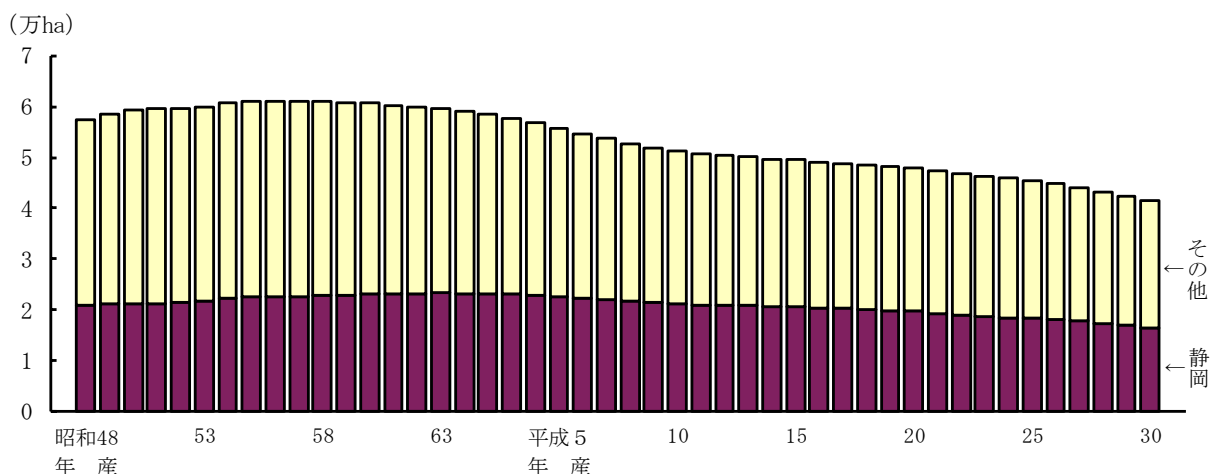
栽培面積の動向をみると、昭和 50 年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している（図 10）。

表 12 平成 30 年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	ha 41,500	ha △ 900	% 98

図 10 茶栽培面積の推移



## 8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

### (1) 飼料作物の作付（栽培）面積計

平成 30 年産飼料作物の作付(栽培)面積は 97 万 300ha で、前年産に比べ 1 万 4,800ha（2%）減少した（表 13）。

#### ア 牧草

牧草の作付（栽培）面積は 72 万 6,000ha で、前年産並みとなった。

#### イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は 9 万 4,600ha で、前年産並みとなった。

#### ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は 1 万 4,000ha で、前年産に比べ 400ha（3%）減少した。



(2) えん麦（緑肥用）

えん麦（緑肥用）の作付面積は4万4,700haで、前年産に比べ1,000ha（2%）増加した（表13）。

表13 平成30年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

区 分	作付（栽培） 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
飼 料 作 物 計	970,300	△ 14,800	98
うち 牧 草	726,000	△ 2,300	100
青刈りとうもろこし	94,600	△ 200	100
ソ ル ゴ ー	14,000	△ 400	97
え ん 麦 （ 緑 肥 用 ）	44,700	1,000	102

注： 飼料作物とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴのほか、  
その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

図11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

